

観光経済常任委員会

小川洋平、江渡信貴、田中重光、竹島勝昭

●和歌山市

和歌山市は少子高齢化に加え、若年層の市外への流出が人口減少に拍車をかけています。市街地の拡大が進む一方で、定住人口が減少、人口密度が低下し、都市の希薄化、拡散化が加速的に進んでいます。また、郊外の大型商業施設の増加のほか、医療福祉施設や教育施設の郊外移転が進んだ結果、中心市街地の活力は低下、未利用建物や低未利用地の増加、中心市街地の魅力が低下し市民が中心市街地から遠のく結果となっています。また今の大都市への経済活動の集中や産業構造の転換といった社会経済の変化は、和歌山市に大きな影響を与えることが予想され、和歌山市の都市構造そのものを大きく見直す必要が出てきます。今後、都市構造の見直しやまちのあり方を検討していく上では、従来の行政による計画づくりという手法ではなく、市民が主体となって計画づくりに参加する手法を活用することが必要不可欠です。市民によるディスカッションやワークショップを通じて、新たなまちづくり

のアイデアを生み出すとともに、まちなか再生の意義や大切さを認識し、計画だけに留まらず、和歌山市に暮らす市民が主体となってまちなか再生に関わっていくことが必要です。

市民が参加して定められた長期的なまちの将来像を「まちなか再生計画」として取りまとめ、今後の和歌山市の都市政策の指針として活用するほか、市民のまちなか再生に向けた取り組みとして活用されることを基本とした「和歌山市まちなか再生計画」策定し、増え続けている和歌山市中心部の遊休不動産を再生・活用して、機能や性能を向上させ、生まれ変わった遊休不動産を核にまちに雇用と産業を生み出しエリアの魅力を高めることを目的に、公民連携のもと、リノベーションによるまちづくりに取り組んでいます。

「リノベーションによるまちづくり」とは、今あるもの（遊休不動産・公共空間）を活かして、新しい使い方をしてまちを変えることで、民間自立型のまちづくり会社が、遊休不動産や公共空間のリノベーションを通じて都市型産業の集積を図り、雇用の創出やコミュニティの活性化等につなげています。また、遊休不動産の再生とまちづくりの担い手育成を図るための短期集中合宿、リ

ノベーションスクールや講演会・勉強会・ワークショップの開催、平成29年3月に策定した「わかやまリノベーション推進指針」に掲載した事業を検討・実施しています。

和歌山市では地域資源を活用した新商品の開発、販路開拓等の新たな事業展開を促進していくため、クラウドファンディング（投資型）を活用した資金調達により新事業を行う市内の中小企業者に対して初期費用（ファンド組成費用）の一部を補助する、和歌山市クラウドファンディング活用支援事業を実施しています。青森県ではむつ市が先行して実施していますが、やる気のある若者たちが新しい事業展開を構築する為の裾野を広げる大きなチャンスになり得ると考えます。リノベーション・イロドリ事業そしてクラウドファンディングがうまく調和しているのも、民間の力と行政の方々が潤滑油になり民間と行政のバランスがうまくとれていると考えます。

●兵庫県姫路市「わかものジョブセンター」事業について

就職に悩む若者たちを支援するため兵庫県姫路市が設置した「わかものジョブセンター」を視察してきました。

姫路市は戦後、商工業都市として発展し、平成 26 年には全国に先駆け連携中核都市のモデル都市に選定されました。市域面積は 534k m²で十和田市より約 190 k m²少ない面積に約 53 万 3 千人もの市民が暮らしています。兵庫県南部のほぼ中央に位置し雪彦峰山県立自然公園や瀬戸内海国立公園など多様な自然資源があり、これを生かした観光推進に力を入れています。また、臨海部には重厚長大型産業が立地し、国宝・姫路城やハリウッド映画のロケ地ともなった書写山園教寺などの歴史的建造物や貴重な文化遺産も数多く有しています。

「わかものジョブセンター」とは、姫路市が無料で就職に悩む若者（2005 年開設当時は 35 歳以下でしたが、現在は 44 歳以下）を支援するため、ハローワークと連携して姫路駅前に窓口を開設しました。この施設は「就職活動の方法が分からない」「履歴書の書き方が分からない」「面接の受け方を知りたい」など、就職に関する様々な悩み

を相談員3名、カウンセラー7名に相談することや、様々なセミナーを受けることができます。ハローワークステーション姫路と同フロアーにあり、「わかものジョブセンター」はハローワークの機能を若者に特化し、より専門性をもたせています。すぐにハローワークで就職活動をするのではなく、若者に寄り添い個別に支援していく下記事項に重点を置き、様々な角度から若年者の就職活動をサポートしています。

①就職支援相談では、相談者の個人情報と就職に関する悩みを聞きます。

②職業適正パソコン診断では、PCでいくつかの設問に答えて、対象者の職業に対する興味度や職種に対しての適正度を診断できます。

③キャリアカウンセリングでは、対象者の就職に関する悩み・疑問・不安を個別に伺い、経験豊かなキャリアカウンセラーが相談者の就職活動の状況に応じたサポートを行っています。

④就職関連情報等の提供では、「わかものジョブセンター」と連携する「職業訓練機関」の情報や、ハローワークや事業主団体と連携して、若年者を対象とした就職面接会や企業説明会の参加を案内しています。

⑤就職支援セミナーでは、就職に役立つ様々なセミナーを開催しています。

⑥ハローワークへの紹介をしています。

「わかものジョブセンター」の利用者で就職できた若年者は、2005年～2016年の12年間で953人。近年では年間100人～120人が就職しています。少子超高齢化社会の現在、若者の流出が大きな問題となっています。大きな要因の一つに、高校を卒業し就職する若者たちや、大学に進学し卒業を向かえる若者たちが十和田市で就職しなくても就職に関するよりよい情報が入らないということです。商工業者や、中小零細企業が大部分を占めている十和田市でも企業と若者を結びつけるにはこういった施設が早急に必要になるだろうと考えます。

●兵庫県姫路市6次産業化の支援と地産地消の推進について

姫路市では、平成21年3月に「姫路市農林水産振興ビジョン」を策定しました。当初は平成30年度を目標とする計画でしたが、第1次産業は減少傾向にあり2,595人と就業人口の1.1%まで落ち込んでいたことから、農林水産業を取り巻く社会・経済情勢の変化に対応す

るため、中間年次である平成25年度に見直しを行い将来像である「環境と共生し、姫路市民の生命と暮らしを支え、温かくふれあえる元気な農林水産業の実現」を目指し推進しています。

農林水産業の将来像の実現に向け、下記の4つの基本の方針を掲げています。

- ① 「姫路の特性を生かした農林水産業の推進」
- ② 「食の信頼確保と地産地消の推進」
- ③ 「市民と農林水産業とのふれあい促進」
- ④ 「姫時らしさを育む農山漁村づくり」

その中の施策に農水産物のブランド化の推進があり、「都市市場が近いことを活かした6次産業化による農林水産物の高付加価値化を推進するとともに、産直等の販路開拓、新商品開発等を国の「6次産業化ネットワーク活動交付金」を活用して、6次産業化に取り組む農林水産業者を支援しているそうです。

地産地消については姫路の農林水産物のブランド化に取り組む生産者への支援を行うとともに、食を通じた生産者と消費者との交流や農林水産業と触れ合う機会を充実させるなど、地産地消に対する

市民の意識向上を図っています。

十和田市の基幹産業である農業は、他の地域に自慢できる「食材の宝庫」です。地域資源を活用した農業者等による新事業の創出及び農林水産物の利用促進は、農業及びそれらを取り巻く地域産業の発展において、今後、市がその取り組みに対して支援していくことの重要性は極めて大きく、農業生産量の増加、事業所得の向上、雇用の創出等は地域経済に大きな影響をあたえる要因の一つであるため、これからも日本全国の先進事例を取り込み、十和田スタイルを構築していかなければならないと考えます。